

熊谷総合病院でPACS（医療

画像ネットワーク管理システ

ム）を導入しました

J A埼玉県厚生連熊谷総合病院では、平成21年10月から新しい医療画像ネットワーク管理システムを導入し、画像診断において精度が向上しました。

PACSとは、医療画像において使われるシステムで、医療用画像データをデジタルデータとして保存し、ネットワークで参照するシステムです。レントゲンを撮影するのに、従来のフィルムは使用せずにデジタル画像で処理が行われます。デジタル化された画像は、

専用のサーバに保存できるようになりました。また、放射線科医が平成21年4月より常勤になった為、画像の早期診断が可能になり、受診者へのサービス向上や診療の向上につながりました。

PACSの対象となるのは、レントゲン撮影、CT、MRI撮影、血管造影です。各撮影室で撮影された画像は、各外来、各病棟、そして手術室で閲覧ができます。

※15インチのモニターと比較すると、こんなに違います。



高精細のモニターを導入

デジタル化された画像を閲覧するために熊谷総合病院では全国初の試みで30インチの高精細モニターを導入しました。このモニターでフィルムに近い画像を出力することができず。さらに、モニターが大きいため、他の画像を同時に表示することができます。その結果、情報量が増えて、的確な

※診察の様子です。



診断につながります。

検診システムとの連動

平成21年1月に熊谷総合病院において検診車を導入し、車内にデジタルX線を搭載しています。デジタル画像について、当初は検診システムのみでの運用でしたが、PACSの導入により、人間ドックなどの院内検診や、役職員検診などの巡回検診で撮影した画像を、各診療科で閲覧できるようになりました。定期的に熊谷総合病院の健診を受診されている方は、履歴が残り、体調を崩されて受診された時も検診時に撮影した画像と容易に比較ができ、診断の向上につながります。